

第60回NGKスパークプラグ杯 鈴鹿サンデーロードレース 参戦報告書

年間チャンピオンに向けて最終戦NGK杯に挑んだTeam HRS
タイから交換留学のライダー2名も合流し、日本のレースを経験

11月16日(土) 公式予選 9:55~10:15 ◎天候・路面:Cloudy/Dry

#11 遠藤翔類 2'23.761/7番手

#8 Noprutopong Bunprawes 2'27.755/16番手

#13 Techin In-aphal 2'26.802/14番手

HRS鈴鹿Motoクラスアドバンスコース2名のライダーが参戦するサンデーロードレースシリーズもいよいよ最終戦だ。ライダーの戸高倫太郎、遠藤翔類はともにナショナルJ-GP3クラスのチャンピオンの可能性があったが、ポイントランキング2番手につける戸高が金曜日の特別スポーツ走行でクラッシュして負傷し、残念ながら欠場となってしまった。また今回はHRSと協力関係にあるタイホンダの2名のライダーが来日してTeamHRSのライダーとして参戦した。

前夜に雨が降り、コースの一部にウエットパッチが残る中、20分間の予選セッションがスタート。遠藤は真先にコースインすると、ライバルたちとポジションを入れ替えながらタイムを競う。序盤は全体でも上位につけていたが、その後タイムは伸び悩み、2周目に記録した2分23秒761がベストタイムとなり、決勝は7番グリッドからのスタートとなった。遠藤は今期ナショナルクラスで開幕戦と第3戦の2度勝利しており、トップとは3ポイント差のランキング3番手。同2番手の戸高が欠場したことで、チャンピオンへの期待度はより高まっているだけに、決勝ではさらなるスピードアップを期待したいところだ。

タイホンダのTechin In-aphalは7周目に26秒802を記録して14位、Noprutopong Bunprawesは6周目に記録したタイムで16位となった。どちらも今回が初めての鈴鹿サーキットということだが、周回を重ねるごとにタイムがどんどん良くなっており、決勝ではさらなる速さが期待された。



TAICHI

Arai

EARPEACE

EIKO
Glory of Karting

EXGEL®
Motorsport

NGK
SPARK PLUGS

ENDLESS
Challenge to the Future

ODYSSEY
ULTIMATE BATTERIES

PIRELLI
Pneumatici

Sabelft

CCI
CO2 CORPORATION

ThreeBond

DUNLOP

TODA
RACING

TONY/KART
23 DAY TOP GAS DAY

TORAY
Toray Carbon Magic

重夢

BRIDGESTONE

PETRONAS

hit-air
HIT AIR SYSTEMS

mooncraft

rizoma

WAKOS

11月17日(日) 決勝レース(フルコース10周) ◎天候・路面:Cloudy/Dry

#11 遠藤翔類 総合16位
(ナショナル9位/NSFチャレンジ5位)

#8 Noprutopong Bunprawes 決勝リタイヤ
#13 Techin In-aphal 決勝リタイヤ

金曜日同様、前夜の降雨により路面にはウェットパッチが残る難しいコンディションの中、10週のレースがスタートした。7番グリッドからスタートした遠藤はオープニングラップでポジションを一つ上げるが、直後を走るライダーとからんでしまい、その間にトップグループに後れを取ってしまう。その後方、タイホンダの2名はスタートをうまく決めて中団グループを走行していたが、オープニングラップの130Rで2人ともウェットパッチに乗ってスリップダウンしてしまい、序盤で戦線を離脱することになってしまった。

レース中盤、上位陣の脱落で遠藤は5番手にポジションアップする。ひとつ前のポジションには、ナショナルクラスランキングトップの針尾選手が走行しており、遠藤がチャンピオンになるためには、是が非でも針尾に先行しなければならない。当初、その差は大きく開いていたが、レース中盤以降、針尾のペースは上らず、追いつける遠藤との差はみるみる詰まっていっていった。

そして8周目の日立ASTEMOシケインで遠藤は針尾のインに飛び込んで先行。このまま針尾選手を抑え切れば遠藤がチャンピオンという状況だが、やすやすと遠藤の先行を許すわけもなく、以降は遠藤、針尾、そしてインタークラスの保坂選手を交えた三つ巴のバトルが勃発。そして迎えたラストラップ、この3台はコーナーごとにポジションを入れ替える激しいバトルを繰り広げ、遠藤、保坂、針尾の順で日立Astemoシケインに進入していく。ところが、遠藤は針尾にインを刺されてしまい、その際ラインを外したことで、立ち上がりで激しくクラッシュ。遠藤は目の前にあったチャンピオンの座を逃してしまった。しかし、この厳しい結果は、きっと彼の今後のレース人生において大きな糧となるに違いない。



TAICHI

Arai
helmet

EARPEACE

EIKO
Glory of Karting

EXGEL
Motorsport

NGK
SPARK PLUGS

ENDLESS
Challenge to the Future

ODYSSEY
BATTERY/BATTERIES
Ultimate Battery

ENDLESS
Challenge to the Future

Sabelft

CCI
CO2 CORPORATION

ThreeBond

DUNLOP

TODA RACING

TONY/KARI
23 DAY TOP GAS DAY

TORAY
Toray Carbon Magic

重夢

BRIDGESTONE

PETRONAS

hit-air
HIT AIR RACING SYSTEM

mooncraft

rizoma

WAKOS

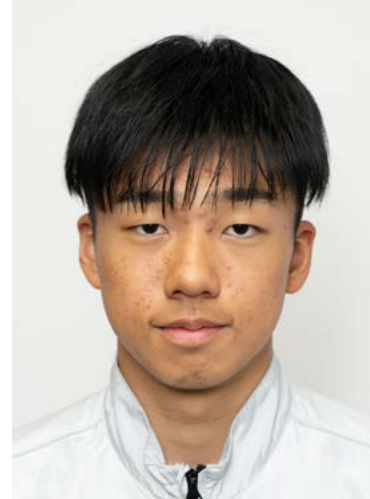
第60回NGKスパークプラグ杯 鈴鹿サンデーロードレース 参戦報告書



**ナショナルJ-GP3クラス: 予選7位 決勝総合16位 (ナショナル9位/NSF
チャレンジ5位)**

遠藤翔類 (えんどう かける) 15歳

『特スポ (特別スポーツ走行) はウェットパッチが残っている状況でした。路面は徐々に乾いていきましたが、それでもペースを上げることができず、この悪い流れを予選でも引きずってしまいました。決勝も特スポと同じような路面状況だったので1周目はペースを抑えましたが、他のライダーも様子見な感じでした。しかし2周目以降、他のライダーがペースアップしたのに、自分について行けずに大きく離されてしまいました。それでも何とかペースを上げて追いついたんですが、そこから引き離すことができず、最終的には転んでしまいました。今年は開幕戦でクラス優勝ができて自信ができました。前半戦の調子は良かったんですが、後半戦は決していい調子ではありませんでした。第3戦は何とか勝てましたが、レース内容としては良く無かったです。HRSではとても多くのことを学べたと思っています。進歩し続けていくためにはどうすればいいのか、ということを学べました。それはレースだけではなく、勉強や仕事など、人生全般にとっても大事なことだと思います』



**インターJ-GP3クラス: 予選14位 決勝リタイア
Noprutpong Bunprawes 16歳**

『今回は初めての日本のレースでした。タイには鈴鹿サーキットのように坂を上ったり下ったりといったサーキットがないので鈴鹿サーキットはとても難しかったです。自分好みのレイアウトです。練習時間が限られていたのでまだ全然慣れていませんが、今回のレースはいい経験になりました。練習の初日は雨が降ってしまい、予選も中途半端なコース状況で、とにかく天気には悩まされました。決勝でもまだ濡れているところ残っていて、滑ってしまいました。来週はJP250の4耐に参戦しますが、ドライコンディションになることを願っています』



**インターJ-GP3クラス: 予選16位 決勝リタイア
Techin In-aphai 12歳**

『一生懸命走るつもりでしたが、残念ながら転倒してしまいました。日本のサーキットは坂が多い印象です。タイのサーキットは坂がありませんが、鈴鹿のようなコースレイアウトは好きですね。今回は練習時間があまり多くありませんでした。もう少し時間があれば、もっと上手く走れるようになると思います。日本のレースにはたくさんのライダー、いろんなタイプのライダーが走っていて、とても勉強になりましたし、いい経験が出来たと思っています。来週はJP250の4時間耐久がありますが、そこでもいろんなライダーの走りを見て勉強したいと思っています』



第60回NGKスパークプラグ杯 鈴鹿サンデーロードレース 参戦報告書



岡田忠之 Principal

『遠藤は1年を通してアップダウンがありました。実力のあるライダーですので今回もトップ争いができたと思いますが、上手くかみ合いませんでしたね。レース序盤はなかなかペースが上がっていませんでしたが、終盤でチャンピオン争いをしているライダーに追いつくことができました。残り僅かのところで転倒してしまいましたが、あれだけの走りができるのもっと自信をもって走ってほしいですね。』

戸高は練習で転んでしまったので、今回は出走できませんでした。しかしガッツのあるライダーですので、その可能性をもっと伸ばせるように指導できればと思っています。また今回は、タイホンダから2名のライダーが交換留学ということで来日しました。JP4耐に向けての事前練習という意味合いの参戦でした。僕は直接見ることはできませんでしたが、レースも難しいコンディションだったこともあり1周目に転んでしまいました。もう少しいい条件で走らせてあげたかったですね。』

今回タイのスタッフからHRSについていろんな質問を受けました。私たちの育成方法は、彼らにとって大きな参考になったのではないかと思います。またタイホンダさんだけではなく、ベトナムホンダさんも我々のスクールに興味を持たれているようです。今後HRSというスクールで、アジア全体のライダーの底上げをしていきたいと考えていて、HRCさんにもいろいろと提案をしているところです』

